

2

持続可能な社会の構築にむけた 食料生産研究からの展開

現在、世界人口は爆発的に増加しており2022年には80億人を突破しました。この人口爆発は生態系に多大なインパクトをもたらし多くの生物種が絶滅しましたが、その絶滅率は恐竜の絶滅を含む地史的な大量絶滅イベントに比肩するレベルとされています。生態系の多様性を維持し、自然と調和しながら、社会全体を発展させていくためにはどのようにしたらよいのでしょうか？生物生産学部・応用動植物科学プログラムでは食料生産研究の観点から「持続可能な社会」の創生を目指して研究・教育に取り組んでいます。本講座では、我々の研究対象である家畜・植物・環境をキーワードに最先端の研究成果を、現状を踏まえて分かり易く紹介します。

会場	対面： 広島大学 東広島キャンパス ミライクリエ2階 大会議室 オンライン： -
時間	①13:00~14:00 ②14:15~15:15
定員	対面： 50名 オンライン： -名
対象	どなたでも
受講料	無料
申込方法	郵送・Web
申込期限	一次申込締切： 5/8(木) ※ 定員に達しなければ 5/15(木) (必着)まで先着順で受付

失われた生態系の全体像の解明にむけた古代DNA研究

講師：生物生産学部 教授 米澤 隆弘

第1回

5/24(土)

13:00~14:00

およそ20万年前にアフリカ大陸に出現した現生人類は、数万年前にユーラシア大陸やその他の地域に拡散しましたが、それとほぼ同時期に各地で大型動物が絶滅しました。本講座では特に日本とマダガスカルに焦点をあて、化石や博物館標本から抽出したDNAの配列データをもとにして少しずつ明らかになってきた「失われた世界」をご紹介します！

「お肉」をめぐる物語

講師：生物生産学部 准教授 河上 真一

第2回

5/24(土)

14:15~15:15

私たちの普段の食卓に「お肉」が上ることは、もはや特別な事ではなくなりましました。しかし皆さんは我が国で「お肉」がどのように生産されているのか、ご存じでしょうか？本講座では我が国における食肉生産、特に牛肉および鶏肉生産の現状と展望について、判りやすく説明します。

ミルクの未来を守る！乳牛の免疫力強化

講師：生物生産学部 教授 磯部 直樹

第3回

5/31 (土)

13:00~14:00

抗生物質が多用される現代、美味しいミルクの未来を守る鍵は乳牛の免疫力です！最新研究で明らかになった乳牛の自己防衛能力と、地球に優しい取り組みについてお話しします！

鶏ふん堆肥を利用した持続可能な米作り

講師：生物生産学部 准教授 長岡 俊徳

第4回

5/31 (土)

14:15~15:15

地域内の耕畜連携を通して家畜ふんなどの有用資源を有効活用する持続可能な循環型農業が求められています。現在広島県で取り組んでいる、化学肥料の代わりに鶏ふん堆肥に含まれる養分を利用する米作りについて紹介します。

植物表皮の分化メカニズム：持続可能な農業を支える基礎研究

講師：生物生産学部 教授 冨永 るみ

第5回

6/7 (土)

13:00~14:00

植物の起源をたどりつつ、バイオテクノロジーの技術を活用した表皮細胞分化の研究をご紹介します。モデル植物シロイヌナズナを用い、表皮細胞（根毛やトライコーム）形成の仕組みを解明し、持続可能な農業への応用を目指します。

ヒトと動物の未来をつくるアニマルウェルフェア

講師：生物生産学部 助教 妹尾 あいら

第6回

6/7 (土)

14:15~15:15

私たちの生活に欠かせない動物の暮らしに必要な「アニマルウェルフェア（動物の福祉）」その言葉の意味を知っていますか？今やグローバル・スタンダードとなったアニマルウェルフェアについて、家畜やイヌ・ネコの観点からご紹介します。

講座内容に関する
お問い合わせ先

生物学系総括支援室 学士課程担当

電話： 082-424-5034

メール： sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp